



~仲間

Mano a Mano(マノ・ア・マノ) — 手と手を取り合おう —	3
国際化協会非常勤職員募集案内	3
公益財団法人 大和市国際化協会からのお知らせ	4

発行■ 公益財団法人 大和市国際化協会 〒242-0018 大和市深見西1-3-17 市民活動拠点ベテルギウス北館1階 TEL 046-265-6051 FAX 046-265-6052 URL: http://www.yamato-kokusai.or.jp Email: pal@yamato-kokusai.or.jp



Mano a Mano(マノ・ア・マノ) 一手と手を取り合おう一

新型コロナウイルスへの対応に関連して、AJAPE (特定非営利活動法人日本ペルー共生協会神奈川) による、外国にルーツを持つ子どもを対象とした緊急支援事業が、11月から生涯学習センターで始まりました。

この事業は、「コロナ禍で弱体化した移民コミュニティをつなぎ直す」ことを目的に、公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンの「新型コロナウイルス対応緊急支援助成~社会的脆弱性の高い子どもの支援強化事業~」を受けて実施されるもので、小・中・高校生への学習指導、中・高校生への進路相談、ルーツや将来などについての意見交換会や母語教室といった活動が行われています。

今回のPalでは、「Mano a Mano(マノ・ア・マノ) 一手と手を取り合おう一」と名付けられたこの事業の様子をご紹介するとともに、研究者であり、当事者でもある、事業のプログラムコーディネーター小波津ホセさんに、事業の目指すところと、大和に暮らす外国につながる子どもたちのこと、わたしたち地域が彼らにできることを教えていただきました。



開始間際、保護者に連れられて、また、友達と連れ立ってやって来た子どもたちで新型コロナの影響で定員の絞られた、狭い部屋はあっという間に一杯になりました。ちょっと意外なのは、周りに促されるまでもなくカバンから宿題を取り出して、自習を始めるみんなの姿。わからないところをボランティアの先生に教えてもらいながら、一人ひとりがしっかり勉強に取り組んでいました。

勉強に飽きてきた低学年の子たちがおしゃべりを始めても、黙々と課題を進める中学3年生は、進路を決める重要な時期とあって、 真剣な表情で教科書に向き合っています。それでも、隣で勉強する 高校生の先輩から「うちと同じ高校においでよ」と声をかけられ、 楽しそうに高校生活へのイメージを膨らませていました。

教室を見学させていただき感じたのは、子どもたちがリラックスして参加している良い場だな、ということ。マノ・ア・マノの活動に取り組むAJAPEは、2009年のリーマンショックのときにも、文部科

学省の「虹の架け橋」事業を受託して、この大和市で5年間、南米にルーツを持つ子どもたちの支援活動をしていました。

今までに積み重ねた経験と子どもたちとの信頼関係、そして「家族」を支援していこうという当事者団体ならではの課題意識がそのような場を作っているのだと思うと、地域にAJAPEのような団体があることの頼もしさを感じます。

一方でリーマンショックから10年も経っているのにも関わらず、今でも、外国につながる子どもたちは真っ先に社会的な困難を受けざるを得ない状況に置かれているという現状と、それを証明するかのような「支援をすればするほど、足りないことがわかる」という、支援者だからこその焦りや不安に触れ、新しい課題解決へのアプローチの必要性を感じました。

「大和市は外国籍住民が多く困窮が進んでいることから支援の必要性はある」というのはセーブ・ザ・チルドレン・ジャパンが、この事業を採択するにあたってポイントになったと指摘している点です。

わたしたちの地域の子どもたちに差し伸べてくれている支援、援助。1年間の事業ですが、ここでの学びが、子どもたちのこれからを長く支える彼ら自身の武器になるよう、AJAPEだけにお任せすることなく、国際化協会や地域も、関心を持って継続した支援をしていく必要があると感じます。

Mano a Mano (マノ・ア・マノ) 開催日時: 2020年11月から2021年10月まで 毎週火曜日、木曜日、金曜日 午後4時から7時30分

開催場所:文化創造拠点SiRiUS 6階 生涯学習センター

目 的:日本の小、中、高校に在席していて、2つの言語、文化間で成長している子どもや若者の育成支援

(日本語、スペイン語、英語、中国語)

問 合 せ:080-7020-2308 小波津ホセ さん

「Mano a Mano(マノ・ア・マノ)」の活動と子どもたちの未来

小波津ホセ



2020年11月からコロナ禍で影響を受けている外国にルーツのある子ども(以下、かれら)の支援を行う [Mano a Mano~手と手を取り合おう] の活動が始まりました。同活動の実行団体は日本ペルー共生協会神奈川(通称AJAPE)ですが、セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンから1年間の助成を受けています。支援内容は、主に学習支援ですが進路指導、ルーツの再認識や子ども・親同士の関係強化にも取り組んでいく予定です。

私は、本活動の責任者ですが小学生の頃にペルーから来日した元外国人生徒で、宇都宮大学で国際学の博士号を取得している研究者でもあります。そのため、本活動へも元当事者、支援者と研究者の3つの視点を持って取り組んでいます。以下、各視点における問題意識を簡単に紹介して本活動の目標を述べます。

私が当事者だった約30年前の居住地域では外国人と関わる機会は皆無であり、少数派であるが故に比較的入念な指導を受けることができました。それでも多忙な学校業務に追われる先生方の支援は限定的で、地域からの支援はなく、親の教育への熱意と自助努力の中で成長しました。その当時と比較して、大和市は史的にみても学校内外の支援の実践経験が豊富であるにもかかわらず、かれらの勉強や進学等の問題は継続して顕在しています。かれらの家庭の定住開始後の問題の根深さ・深刻さに、元当事者としてかれらを支援していくことの必要性を痛感しました。特に家庭の土台となる親の日本語能力不足に

より子どもへの支援が欠如している家庭が多く見られることは課題です。学校や地域支援に頼らざるを得ない現状が未だに存在しており、家庭内教育・学習が不十分なまま子どもは成長しています。

日本語指導や教科指導における支援者は当事者に向き合うことが求められ、私自身も同様の立場で支援を実施してきました。 一対一指導や寄り添った指導により成果が目に見えてくる一方で、担当者としての任期満了や当事者の移動等により支援が断絶してしまう場面に何度も遭遇してきました。その度に「かれらは大丈夫なのだろうか」と不安に駆られることも少なくありませんでした。その上、多様な家庭背景をもつかれらの家庭内で学習の習慣が定着しないことで学校内や地域教室等で懸命に指導した内容の習得に時間がかかってしまうという現実もあり、「学習支援」の方向性を改善していく必要性も感じています。

一方で、長年にわたって北関東にいるペルー人に焦点をあてた研究を実施していく中でルーツの再認識が求められる子ども、将来展望が不明確である子どもや親子関係が不協和である子どもにも会ってきました。このような問題は、コミュニティの設立経緯、多様な形式のコミュニティやそこへの関り度合がちがっても大和市在住のペルー人の子どもにも同様に見られます。とはいえ、コミュニティだけで解決できる問題ではなく、家庭・地域・学校の連携が必要であり、包括的な支援が求められているとも考えています。この中で本活動では、家庭と地域が主要な領域になります。

以上の問題意識を踏まえ1年間の限定した活動となる「Mano a Mano」が目標とするのは次のことです。かれらが支援者の補助を受けながらも自立的な学習習慣を身に着け定着させていくこと、かれらがルーツを再認識し、自尊心を大切にできる様になること、そして将来展望の具体性を持つためにかれらだけでなく、親とも連携して支援していくことです。特に現在、コロナ禍で孤立したり経済的にまた、将来への不安を抱えているかれらが多くいます。そのため、かれらへの支援として本活動の重要性は高いと感じており、2021年10月までの時間を大事にしていきたいと考えています。

特定非営利活動法人日本ペルー共生協会

1999年、在日本ペルー大使館の働きかけにより、在日ペルー人コミュニティの文化交流や生活水準の改善に取り組む団体として設立された。設立目的は「広く一般市民を対象として我国に滞在するペルー及びラテンアメリカ出身者又はその子どもが日常生活を営むうえで彼らのアイデンティティーを守りつつ我国の秩序、ルールに従って日本人と平穏に共存することができるようにし、国籍を問わない真に友好的で豊かな共生社会の実現に寄与すること」。

現在は、その子どもたちの成長に伴い、入学や就学、進学がより重要となったため「教育」に重点を置き活動しており、毎週 土曜日の午後にも町田市民フォーラムで小学生から高校生までの学習支援教室を開催している。その他日本人市民を対象と した、初級、中級レベルのスペイン語教室などを実施。

問合せ:090-7834-6653 高橋悦子さん

国際化協会の臨時職員を募集します。

■採用区分と採用予定人数

臨時職員 1名

■職務内容

- 1)事業担当として、国際化協会が実施する事業(外国人市民の自立と社会参加を促進する事業及び市民の相互理解の促進と市民主体の国際化推進活動への支援)の企画・運営を行う。
- 2) 英語通訳員として、外国人市民からの英語での問い合わせに対応する他、市内公共機関や市立病院の電話通訳に対応する。
- 3)国際交流サロン利用者への応対や市民からの窓口、電話、メールなどでの問い合わせへの対応などの国際交流サロンの管理運営業務やその他必要な業務を行う。

■応募資格

以下の条件を満たす方

- 1)2021年4月1日から勤務でき、夜間や土曜日のシフト勤務にも対応できる方
- 2) Word、Excelなどのパソコンスキルを有する方
- 3)地域に暮らす外国人市民の声をよく聞き、社会的課題の解決へ向けて自分のアイディアを事業として企画・実施できる方
- 4) 通訳員として市民からの相談に対応できる英語力(英検準1級以上)を有する方

■雇用期間

2021年4月1日~2022年3月31日

更新可 ※臨時職員として最大で5年間雇用を継続することができます(条件あり)

応募要領及び勤務条件は、2021年1月上旬にウェブサイトなどで公開します。ご興味のある方は、ぜひお問い合わせください。

Pal. vol.108 WINTER

公益財団法人 大和市国際化協会からのお知らせ

月曜日、サロンは 9:00~16:00 10:00~13:00 10:00~13:00 9:00~17:00 ベトナム語 タガログ語 中国語 お休みです スペイン語 月 余 н лk + 2 お休みします 7 3 4 5 9 6 防災とボランティア展 @イオンモ ルやまと 1/20~21 10 11 12 13 14 英語翻訳研修会 (詳細は vol.107 健康都市大学講座 をご覧ください) 「大和市国際化協会の ╚ᡃᡃᠳᠳᠳᡀ 紹介と登録ボランティア 21 22 23 による東洋医学講座」 にほんごで話そう 日本語スピーチ大き @生涯学習センタ ピックアップ。 日本語教授法 24 25 26 27 30 ー・------ブラッシュアッフ 講座(後半) 外国人ママの 31 ひろばは現在 活動休止中です 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 PATPUTAL PUBLIS 13 多文化共生防災訓練 14 15 16 17 18 19 英語翻訳研修会 (詳細は vol.107 をご覧ください) 21 22 23 24 27 外国人ママの ひろばは現在 活動休止中です 28 外国語版 情報紙発行 1 2 3 6 **Ľ**ŦŦŦŦ 日本語教授法 ブラッシュアッフ 講座(後半) 7 11 13 8 9 10 15 16 17 18 14 [277774739] やまとグローバルカフェ 「メディアと多文化共生」 21 22 24 25 26 27 外国人ママの ひろばは現在 活動休止中です 28 29 31 Pal Vol.110 発行

土曜開庁日

■公益財団法人大和市国際化協会 〒242-0018

神奈川県大和市深見西1-3-17 市民活動拠点ベテルギウス北館1階

Tel: 046-265-6051 Fax: 046-265-6052

Email: pal@yamato-kokusai.or.jp http://www.yamato-kokusai.or.jp 受付時間 月・水・金 第1、3土曜日

8:30~17:00

火·木 8:30~20:15



╚[┻]┻┩┸┸

①開催日時 ②開催場所 ③費用 ④内容 ⑤講師 ⑥対象 ⑦定員 詳しくは、国際化協会のホームページ (http://www.yamato-kokusai.or.jp/)でご確認ください。お 問い合わせ、お申込みは、電話、窓口、Fax、Emailで受け付けます。

注意

新型コロナウイルス感染拡大の状況によっては、開催 日時を変更することがありますのでご了承ください。 詳しくは事務局までお問い合わせください。

現在、国際交流サロンでは、人数を制限して日本語 ボランティアの活動を再開しています。

換気と暖房を併用していますが、各自でも寒さ対策を お願いします。また、手指の消毒、使用した机などの 清掃にご協力ください。

国際交流サロン内での飲食は禁止としています。

第15回 にほんごで話そう!日本語スピーチ大会来場者募集

①1月24日(日)午後1時30分開始 ②大和市渋谷学習 センター(IKOZA)2階多目的ホール ④外国につながる 市民10名による日本語スピーチの発表ほか ⑦60名

新型コロナウイルス感染症拡大防止の目的で来場者の人数を制限して実施します。来場を希望される方は、事前申し込みをお願いします(席に余裕がある場合に限り当日入場も受付けます。)



日本語教授法ブラッシュアップ講座(後半)参加者募集

①第3回:1月30日(土)、第4回:3月6日(土)いずれも午後2時から4時 ②市民活動拠点ベテルギウス北館1階会議室 ③無料 ④第3回のテーマは「敬語の用法」、第4回のテーマは「生活者としての外国人と、日本語能力試験」 ⑤にほんごの会企業組合 平野眞理子先生(第3回)、天坊千明先生(第4回) ⑦各回30名程度(直接受講 12名、オンライン受講 18名)受講方法は応募時に選択

やまとグローバルカフェ オンライン

メディアと多文化共生

テレビやインターネット、雑誌、映画、SNSなどのメディアで表現されるステレオタイプなどを読み解きながら、多様性を尊重する地域社会のあり方について考える。

①3月13日(土)10時から12時 ④メディアで表現されるステレオタイプなどについて考える。 ⑤大阪市立大学都市文化研究センター研究員 ケイン樹里安氏ほか ⑥どなたでも

多文化共生防災訓練

今年度は、災害時外国人支援セミナーとして、Zoomによるオンライン講座を開催します。

①2月13日(土)10時から12時 ③無料 ④災害時に求められるボランティアの役割などを講義を通して学びます ⑤NPO法人多文化共生マネージャー全国協議会理事 高橋伸行氏ほか ⑥登録ボランティア、行政関係者、日本 語教室関係者、NPOなど関係団体、自主防災会のほか 関心ある方

本年も1年間、大変お世話になりました。 国際化協会は、12月29日から1月3日までお休みをいた だきます。どうぞ良いお年をお迎えください。